

く、若しや條蟲の幼體なる包蟲嚢ではあるまいかと思つたから、その兎丈貫ひ受けて翌日其の部を切開して見た處が、果せるかな、前記の *Ooc. serialis* であつた。直徑五、五種内外の包蟲嚢が、下方の一部は臀肉中にあり、一部は皮下に露はれて居るのを發見した。周圍の筋肉と結組織を除き取り出して見ると、多數の頭頸部が包蟲嚢の各處に群をなして存在するのみならず、包蟲内に更に内生の小包嚢數十個を生じ、此等小形の内生包嚢には其の内壁面に只一個の頭部を生じて居る位で、未だ幼若な包嚢で、其の直徑は僅に二分内外であつた。筋肉中にある該包嚢はあまり見ない例である。

(二) 前記の兎の體腔内には四十餘個の豆形囊蟲が存在して居つた。此は別に珍らしいことでもなんでもないが、此の豆形囊蟲の内には盲腸壁内に存在して居るものもあつた。又豆形囊蟲は一個々々存在して居るものと、數個十數個相連り、結組織で連結せられて居るものがある。此の兎と同日に捕へた他の兎の體腔にも數多の豆形囊蟲を見たが、此の兎で特に記すべきは、普通豆形囊蟲は腹腔内に遊離するか腹腔内諸器官に附着するのであるが、余の見た兎では胸腔内にもあり肺に附着して居るのを發見した事は珍しい例と思ふ。(吉田貞雄)

● 唯一個の胎兒を有せる兎

大阪近郊より得たる前項記述の兎の左側子宮の中央部

(雜 錄) ○唯一個の胎兒を有せる兎 ○二種の「コンコデルマ」

が梅果大に膨滿して居つたから、屹度妊娠して居るのであらうと思つたから、其部を切開して見ると果せるかな一胎兒を發見した。其長徑二分位のものであつた。兎は一回に數頭の子を産むと聞いたが、唯一個の胎兒を孕むこともあるものかしらんと思つた。記して教を乞ふ。(吉田貞雄)

● 二種の「コンコデルマ」

本年一月の本誌に、マンボウ寄生の「ペンネラ」に着生する一種の *Conchoderma* の事を一寸書いて置いたが、先頃石川縣の徳久氏から、それとは全く違つた *Conchoderma* を送つてよこした。徳久氏の標本は、座頭鯨の體上に附着して居つたものだといふ。尙ほ其後標本棚の整理をする、大正二年七月、館山で得た、ツチクデラの齒に附着して居た *Conchoderma* が出来た。

「ペンネラ」から得た標本は、大體 DARWIN ("A Monograph of the sub-class Cirripedia, the Lepadidae," 1851.) の圖説した *Conchoderma virgata* と一致するが、自分の標本には、前にも報告して置いた通り、個體が未だ若い爲か、殻 (valve) と認むべき物が全く無い。DARWIN の記載には "Scuta three-lobed: terga concave internally, with their apices slightly curved inwards: carina moderately developed, slightly curved." とあり、圖にも可なり著しい殻が示してある。併しながら、一方、又、ダーウィンは、其の General Remarks の中で、本種の殻の形狀及石

(筆 録) ○鹿兒島産「ダストマ」の中間宿主 ○切斷方位指示の一法

灰化の程度が、*Conchoderma aurita* の場合と同様、非常に variable である由を述べて居るから、此の點は餘り重要視すべきでないかも知れぬ。

次に、坐頭鯨及槌鯨から得た標本は、體形色彩等互に、多少異つては居るが、scuta の形、filamentary appendages の形、位置、及 capitulum の上端に二個の所謂 "tubular ear-like appendages" のある點など、兩者全く同様で、此の方は *Conchoderma aurita* と同一種の者であらうと思ふ。

槌鯨の標本では、體長、柄部共に約二種の小形の者には、未だ耳狀突起が現はれて居ないが、體長三種位の者になると、既に明かな耳狀突起が發達して居る、之に反して、坐頭鯨の標本では、體長二種位の最小の者にも、既に立派な突起がある。而して是等の突起は、縦へ小形の者でも、其の先端には、皆な一つ宛の開口が存在して居る。

此の突起は、ダーウインの引用した MCGILLIVRAY の言に據れば、最初は閉塞して居るが、後になつて開口を持つやうになるのだといふ事である。

尙ほ capitulum の orifice の上端にある notch は、槌鯨の標本の小形の者には何れも存在して居るが、坐頭鯨の者では、如何なる標本にも皆明かに見られる。

耳狀突起の作用に就ては、ダーウインは下のやうに曰つて居る。"I believe, that their function is respiratory: the corium lining them is traversed by river-like circular

channels, and their much-folded, tubular and open structure must freely expose a large surface to the circumambient water." (第一四五頁) 尙ほ本種には、特別に良く發達した filamentary appendages があり、而して此の器官は又一種の呼吸器と看做されて居るものであるから、*Conchoderma aurita* は、他の者よりは一層餘分に呼吸作用を営み居るものといふことになる。ダーウインが "Why this species should require large respiratory organs than any other, I know not." と曰つたのは、恐らく此の意味からであらう。

吉田貞雄氏が鹿兒島産の蟹なりとて、予に郵送せられたるものは、嘗て、朝鮮の食用蟹として本誌前卷に報じ置きたるものと同一種、即ち *Helice tridens* (DE HAAN) (和名ハマガニ) なる事を確め得たるが、是れ亦、「ダストマ」中間宿主なりといふ。詳しくは本號別項吉田氏執筆の論説を参照ありたし。

●鹿兒島産「ダストマ」の中間宿主

極めて小さな發生材料などの切片を作るとき、其方向を定めるために、材料をセロイデンⅡ丁子油でアラブに貼りつけて之と一緒に切るといふ谷津博士の考案に係る方法其他種々行はれるが、新刊のマクブライド著『發生學教科書無脊椎動物篇』の巻首にはセロイデンⅡパラフィン

●切斷方位指示の一法

極めて小さな發生材料などの切片を作るとき、其方向を定めるために、材料をセロイデンⅡ丁子油でアラブに貼りつけて之と一緒に切るといふ谷津博士の考案に係る方法其他種々行はれるが、新刊のマクブライド著『發生學教科書無脊椎動物篇』の巻首にはセロイデンⅡパラフィン